
だいすきっ！！ 『たつじんっ！！』

犬兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だいすきっ！！ 『たつじんっ！！』

【Nコード】

N8360N

【作者名】

犬兎

【あらすじ】

ゆあは里見家の『いぬ』です。

お兄にとってもかわいがってもらっています。

毎日ご飯も食べてます。

毎日服も着せてくれます。

首輪つけてもらって散歩にも行きます。

とっても幸せな、ゆあとお兄のお話です。

今日はお兄がお出かけしています。

+ + +

人と動物の交配種族『デミヒューマ』と人間が共存する世界。この世界では、人間そっくりの動物を当たり前のようにペットとして飼育している。

そんな世界の日常のお話です。

お兄はクラスメイトの家にやってきていました。

「しっかし、家に呼び出してまで相談ごとって何なんだ・・・教室でもあんまり話したことないのに」

インターホンを鳴らします。

『はい。どちらさまですか?』

「あ、里見つばめです。ののさんいますか?」

『ああ、キミか。　ちょっと待っていてくれ』

「さっきと声違う!?!?」

だいすきっ!?!

だいごわ　『たつじんっ!?!』

「やあ、わざわざすまないな」

「やあ。　相沢さんって、電話だと声変わるタイプ?」

「いきなり挨拶だな。　まあ、確かにそうかもしれないが」

「びつくりしたよ。家族の人だと思ったのにさ」

「今日、家族は誰もいないから気兼ねなくくつろいでくれ。さ、あがってくれ」

誰もいないって、なにやら危険なカンジ？ おにいのみさおのきですかっ！？ わふ！ ゆあは野生の勘で分かるのです！

「お兄の危機！？」

「うわっ、ゆあちゃんいきなり何よ？」

「なんだかいけない雰囲気の前感です！ あひるちゃん！」

お兄、ゆあは信じてますよっ！

「リビングがいいか？ それとも私の部屋のほうがいいかな？」

「どっちでもいいよ、そんなの」

「ふふっ、では、私の部屋に来てくれ。こっちだ」

「あのさ、相沢さん。ちなみに家族の人はどうしたんだ？」

「ああ、私の『ねこ』を連れて旅行に行ったよ。まったく、私が飼っている子だというのに勝手なものだ。さて、ここが私の部屋だ。女の子の部屋にしては、いささか殺風景だが我慢してくれ」

「確かに何も無い部屋だな。姉ちゃんの部屋とは大違いだ」

「ああ、キミの家は姉三人だったか。それにペットも女の子だと聞いているぞ」

「ゆあのことか？ あいみから聞いたのか？」

「愛河とはよく話すからな。キミのこともよく聞かされているよ」

「アイツからの話じゃ、俺はずいぶん悪いイメージなんじゃないか？」

「そうでもないさ。愛河はともかくとして、少なくとも私は」

「あー、ところで、相談って何なんだ？」

「そう急くこともないだろう？ もう少し話を聞かせてくれないか？ 例えば、キミのペットのことか」

その頃、ゆあは玄関の前でお兄を待っています。

「わう。お兄・・・」

「ゆあー。そんなトコで待っててもお兄はまだ帰ってこないわよ」

そんなこと分かりません。もしかしたらお兄の勤が働いて早く帰ってくるかもしれないです。ゆあのみしがりなオーラを感じ取って一刻でも早く帰ってきてください！

「それでさ、ゆあってばなんでか知らないけど泥遊びが好き

で。今日もここに来る前にあいつ泥だらけになってさ」

「へえ、そういう手のかかる子はいいいじゃないか。かわいくて。私の『ねこ』はそういうのが一切ないからうらやましいよ」と、もうこんな時間か。そろそろ帰らないとご家族が心配するだろう」

「え？ いや、でも・・・相談事は？」

「ああ。あれは・・・いや、別に構わないさ。次の機会にしよう。送っていくよ」

「いや、そこまでしてくれなくても」

「せつかく休日を割いてまで来てくれた好意には好意をもつて返さないといけないだろう。それとも、私は嫌いか？」

「いや、かなりどうでもいいが」

「なら、好意は受け取っておけ。さ、行こうか」

その頃ゆあはすっかり涙目。早く帰ってこないと不安とさみしさでおしっこ漏らしそうです。

「わう・・・」

「すずめ〜。あんたがろくでもないことゆあに吹き込むからよ。まったく、あんたは女のクセに女心が分かっていないのかね」

「う・・・悪かったってば。」

でも、あひる姉ちゃんに言われ

「たくないわよ」

「お兄・・・ゆあは捨てられる子じゃないですよ」

すっかりしょんぼりです。でも次の瞬間、ドアが開いたではありませんか！ ゆあは一気に飛び掛ります。

「お兄〜！」

「うわっと、ゆあ。何よいきなり」

「お姉さま・・・なんだあ・・・」

ゆあはがっかりして隅っこでいじけてます。

「うわ、何このいきなりの空気読めてない感」

「ホントに空気読めてないのよ、鷹子姉ちゃん」

「ただいまーって、何やってるのさ。全員揃って」

「お兄〜っ！ ゆあは捨てられない子ですよ〜！」

お兄にすぐさま抱きつきます。しかしすぐさま引き剥がされます。

「ゆあ、人が帰ってきたときになんて言うんだっけ？」

「わふ・・・お帰りなさい」

「はい、ただいま」

そこでお兄の後ろにいる女の子に気が付きます。 なっ！ まさか、
この子が新しいペットですか!?

「お兄！ その子は・・・？」

「ん？ ああ、クラスメイトの相沢野乃さん」

「やあ、キミがゆあちゃんか。キミの飼い主から話は聞いているよ」

「お兄から？」

「ああ。話の通りかわいい子じゃないか」

ののさんはそう言ってゆあを撫でます。

「わふ・・・」

「ふむ・・・『ねこ』もいいが『いぬ』もいいものだな」

「わふ・・・わう・・・」

「そういえば相沢さんのペットはどんな子なんだ？」

「ん？ うちのムーンは・・・そうだな、愛想は良くないな」

「わう・・・う」

「ペットというよりも話し相手といった感じかも知れないな」

「わふ……う」

「相沢さん。それ以上は……ゆあがもたないと思うぞ」

「ん？ ああ、これは失敬」

「わ、わふ……昇天寸前でしたあ……」

こんなに気持ちのいいなでなでできる人は初めてです。まさか四十八の殺『いぬ』技を使える人がいるなんて驚きでした。危うく魂的にも性的にもいつてしまう所でした。

「じゃあ、私は帰るよ」

「ああ、じゃあ、また学校でな」

「ああ、またな『お兄』」

「ちよ、相沢さん！ その名で呼ばないでくれ」

「ふふっ、気に入った。これからは私もお兄と呼ばせてもらうよ」

「ちよ、ちよい待て相沢さん！ それだけは勘弁してくれ！」

相沢野乃さん。もしかすると、あの人はものすごい方なのかもしれません。また会えたら撫でてもらえるかな……。おしまい。

次回予告

「ゆあ、道端にこんな子落ちてた」

「わふっ！ それは『かわうそ』っ!？」

嘘です。そんな次回はないです。

四十八の殺『いぬ』技は伝説のわんこマスターが編み出したという伝説の必殺技です。これを使えばどんな『いぬ』でもたちまちモノにできるというお話です。お兄も覚えてくれないかな・・・。

次回『だいすきっ!』は、

『すにーきんぐっ!』!

こちら「ゆあーク」。学校に潜入した。ミッションを開始する。
お兄を探して、学校を探検ですっ!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8360n/>

だいすきっ！！ 『たつじんっ！！』

2010年10月9日10時55分発行